

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶらすA 杵築事業所		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 2月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人(7家庭)	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 14日		～ 令和8年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が在籍している為、その分野の専門的な意見を活動や支援に反映しやすい。	・専門職に直接、個別や小集団で支援をお願いすることも多い。 ・活動の立案時には、PTやOTだけでなく、保育士や児童指導員等、色んな視点からの意見を取り入れている。	・専門職だけに限らず、全職員が色んな研修や会議に参加することにより、職員の質の向上を図りながら、チームとしての底上げをしていく。
2	多機能型事業所の為、小学生以上の児童と関わる機会が多くあり、良い刺激を受けている。	・集団行動が取れるよう放課後等デイサービスのこどもと一緒にの流れで、学習習慣を付ける前段階での机上活動(お絵かきやシール貼り等)をする時間を設けている。 ・始まりの会や帰りの会等も、放課後等デイサービスのこどもと一緒にいき、座って待ったり、返事や挨拶の練習もしている。	・放課後等デイサービスの児童の役割(お当番業務など)を児発のこども達に任せてみることで、台拭きや人前で挨拶をする経験を積み、自信に繋げていく。
3	職員同士が普段から気兼ねなく話し合い、風通しの良い職場である。	・その日の利用児の様子を共有し、次はどういう支援をしているよう等、職員同士で話し合うようにしている。 ・週案や月案も一人では決めず、色んな意見を取り入れて決めるようにしている。	・職員からの聞き取りだけでなく、アセスメントシートを取り入れながら、さらに職員同士でその子その子に応じた支援の方向性を再確認、再検討しながら、今後の支援に活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所に庭や広場等、外遊びスペースが少ない。	・平日利用の際には、限られた時間の中で、課外活動等、外遊びの時間が取れないこともある。 (長期休みや土曜日には、時間が多くあり、公園遊び等を取り入れている。)	・公園遊びを取り入れたり、限られたスペースでプールや砂遊び等ができるよう活動を工夫していく。
2	ホールの床がフローリングで固い為、転倒時など怪我のリスクがある。	・靴下を履いていると、床がフローリングで固く、滑りやすい。また、靴下を脱ぐと、床が冷たい。	・ジョイントマットや五色マット等を敷き、転倒時の怪我のリスクを軽減する。 ・裸足に慣れるよう感覚統合を図っていく。
3	地域交流の機会が少ない。	・ほとんどの利用児童が、平日はこども園と事業所を併用利用している為、事業所内で活動することが多い。	・公共交通機関を使った活動の企画や地域の行事やイベントに平日でも参加してみる。 ・山香の事業所だけでなく、他の児童発達支援のこども達とも関わる機会を設ける。